パリだより：ユネスコ日本大使からの手紙（第２号）

２０２４年４月１１日

ユネスコ日本政府代表部大使の加納です。

昨年末にパリに着任してから、はや３か月が経ちました。着任当初は朝起きるとまだ真っ暗でしたが、徐々に日も長くなり、春分の日あたりを境に一気に春らしくなりました。３月３１日未明にはサマータイムで時計の針が１時間進んだこともあり、夕方まで明るく過ごせるようになりました。

今回は、３月後半に開催されたユネスコ春の執行委員会を中心にお伝えしたいと思います。

春のユネスコ本部事務局

1. ユネスコ春の執行委員会

（ユネスコの主要機関）

ユネスコには三つの主要機関があります。全加盟国から構成される「総会」(General Conference)、５８カ国の理事国により構成される「執行委員会」(Executive Board)、ユネスコの日常業務を行う「事務局」(Secretariat)で

す。民間企業にたとえれば、総会が株主総会、執行委員会が取締役会、事務局が日々の業務を行う会社組織と言って良いでしょう。

ちなみに、この三つの機関のトップ、すなわち総会議長、執行委員会議長、事務局長はいずれも現在女性が占めています。

前列左から、アズレー事務局長、ラコィユ執行委員会議長、一人おいてミクレスク総会議長

総会は２年に１回、執行委員会は毎年春と秋に２回開催されます。総会ではユネスコの事務局長の承認や、２ヵ年予算の承認、総会議長、執行委員会議長・委員国をはじめとする主要ポストの選挙、その他ユネスコの業務に関わる主要課題についての決議の採択などが行われます。次の総会までの間は、執行委員会が全加盟国を代表して、事務局長以下の事務局の活動をモニターし、事務局の活動を方向づける種々の意思決定を行います。４年に一度行われる事務局長選挙を仕切るのも執行委員会の役割ですので、大変重要な機関と言えます。ちなみに日本は１９５１年のユネスコ加盟以来、ずっと執行委員国の立場を維持しています。

（春の執行委員会）

今年の春の執行委員会（第２１９会期）は例年より少し早く、３月１３日から２７日までの間、開催されました。会期中は、イスラム諸国のラマダン（断食月：イスラム教徒が日中の飲食を控える期間）の時期と重なっていたこともあり、討議が午後６時～９時のナイトセッションに及ぶ時には、日没後の時間帯に夕食のための休憩時間が設けられました。また、春分の日は中央アジアで

はノウルーズ(Nowruz)という新年のお祝いの日にあたり、ユネスコ本部でも中央アジアの外交団を中心としたイベントが開催されました。マルチの国際機関ならではの多国籍の雰囲気が溢れています。

ユネスコ執行委員会全体会合

３月１８日から１９日に行われた全体会合（プレナリー）は、まずベラ・ラコィユ執行委員会議長による開会宣言、冒頭発言から始まりました。ラコィユ議長はセント・ルシアの次席代表ですが、レバノン出身。マルチの国際会議では、「お雇い外国人」のような形で別の国籍の人が代表を務めることがままあります。ラコィユ議長は長年ユネスコに関わってきたベテランで、昨年のユネスコ総会で執行委員会議長に選出されています。

全体会合では続いて、アズレー事務局長からの活動報告が行われ、その後、５８カ国の委員国、ついでオブザーバー国からのステートメントが行われました。私も、５８カ国の最後に日本を代表してステートメントを行いました。着任してから初めてのユネスコの公式会合での発言でしたので、少し緊張しましたが、現在の国際社会においてユネスコの役割に対する期待はかつてなく大きく、長年ユネスコを支えてきた日本の代表として、全ての関係者と緊密に連携していきたいとの決意を述べました。

執行委員会全体会合でステートメントを行う筆者

ユネスコの会議に特徴的な点として挙げられるのが、まず、女性の比率が高いことです。ユネスコ事務局幹部、各国代表団大使でも女性の数は多いです。一度、アジア５カ国（日本、中国、韓国、ベトナム、スリランカ）の大使によるランチに参加したことがありますが、私以外は全員女性で少しだけ戸惑いました。前述の通り、現在、総会議長、執行委員会議長、事務局長の三人がいずれも女性ですが、今回の全体会合でステートメントを行った５８カ国の委員国代表のうち、ほぼ半数の２６名が女性でした。

もう一つの特徴はマルチリンガル（多言語）の環境であるということです。ユネスコは国連の専門機関ですので、公式会合では６つの国連公用語（英語、フランス語、スペイン語、アラビア語、中国語、ロシア語）が文書、スピーチ等で使用され、同時通訳がつきます。ここまでは他の国連機関と変わりませんが、ユネスコに特徴的なのは、各国代表がステートメントの中で複数の言語を操る、例えば英語で始めたスピーチを途中でフランス語に変え、再度英語に戻すといったことが珍しくないということです。中には一つのスピーチの中で３ヶ国語（英語、フランス語、スペイン語、あるいは英語、フランス語、アラビア語）を話す人もいます。

全体会合での各国ステートメント、事務局長への質疑応答が終わると、翌日から最終日の前日までは、複数の委員会に分かれて議題毎に討議を行い、事務局あるいは加盟国から提出された決議案の審議を行います。この決議案審議でも、ユネスコ特有の慣例として、スクリーンに英語とフランス語の両方の決議

案が並べて映し出されて議論が行われます。多くの議論は英語の案文をベースになされますが、途中で、「フランス語の表現がおかしい」といったコメントが飛ぶことがあります。議論と並行して両方の言語を調整しなくてはならない事務局スタッフは大変です。

執行委員会での決議案審議の様子

執行委員会で扱われる議題はユネスコ全体の予算に関する事項や、ユネスコの担当分野である教育、科学、文化関連での事務局提案、あるいはユネスコの関与が相応しいと考えるテーマについての加盟国からの提案など、多岐にわたります。今回の執行委員会でもジェンダー、多言語、科学者の安全など、様々なテーマが加盟国から提案されました。

（ユネスコ・アーカイブの記録保全・デジタル化推進の提案）

今回の執行委員会では、日本もフランスなどと共に、ユネスコのアーカイブにある文書・音声・映像記録の保存とデジタル化を推進するための決議案を提案しました。第１話でも触れたように、ユネスコの前身として「国際知的協力機関」が戦前パリに設立されていましたが、当時の関連の記録はユネスコ事務局本部地下にあるアーカイブに引き継がれています。私も一度足を運んでみましたが、国際知的協力機関の事業で作成された、夏目漱石の「こゝろ」のフランス語版も見つけることができました。

ユネスコ本部事務局地下のアーカイブ

この国際知的協力機関とユネスコを通じた期間における、膨大な文書・音声・映像記録が保管されていますが、少なくない資料が劣化の危機に晒されています。これらの記録のデジタル化を進めて人類の共通財産として活用することは重要な意義があります。日本は既に一部資料のデジタル化のための支援を行いましたが、まだまだ不十分です。今年が１９２４年に国際連盟が国際知的協力機関の設立を決定してから１００周年になるのを機に、ユネスコ・アーカイブの資料の保存・デジタル化促進を呼びかける決議案を提出したわけです。幸い、決議はアクラメーション（拍手）で無事採択されました。

今回、この決議案を発案したのはホスト国のフランスであり、それに日本が真っ先に賛同したことから、決議案の説明をフランス大使が、次いで私が補足発言をする予定でした。しかしながら、議事進行がずれ込み、フランス大使が所用で退出せざるを得なくなったため、私が急遽、この決議案を説明することになりました。これまでのフランスの貢献に敬意を表し、フランス語で提案の趣旨説明のステートメントを行いました。

（ガザ、ウクライナ情勢）

執行委員会では、このほかにも時々の国際社会の関心事項も議論されます。ユネスコは教育、科学、文化、情報が担当分野ではありますが、様々な国際紛争と無縁ではないからです。

特に、昨年１０月７日のハマスによるテロ攻撃に端を発したガザ情勢は、その後のイスラエルの軍事作戦の進行と現地の人道状況の悪化により、大きな国際社会の関心事項となっていますが、ユネスコ執行委員会でも大きな注目を集めました。日本は、ハマスのテロ攻撃を非難し人質の早期解放を求める一方、ガザでの人道状況の悪化に対し国際機関を通じた支援を行っていますが、ユネ

スコを通じても教育分野での支援を決定し、執行委員会前に表明しました。

ユネスコには２０１１年にパレスチナが加盟しましたが、これに反発したイスラエルと米国が相次いでユネスコを脱退し、米国は昨年正式に復帰したところです。ユネスコは、米国とパレスチナの両方が正式加盟国として直接対峙する稀有な国際機関と言えます。

執行委員会での討議の模様

昨年１１月のユネスコ総会では、現地情勢の評価を巡って、米国をはじめとする西側諸国とアラブ・グループをはじめとするいわゆるグローバル・サウス諸国の意見が割れて、決議案が投票に付されることになり、ユネスコにおいても国際社会の分断を印象付けることになりました。今回は、主要関係国が水面下での交渉を優先した結果、コンセンサスで決議案が採択されました（ただし、米国はコンセンサスには異は唱えないものの、自らはコンセンサスから離脱）。

ロシアの侵略開始から３年目に入ったウクライナ情勢も、昨年秋の前回と同様取り上げられました。日本は、第１話でも紹介したように、経済支援に加えユネスコを通じた文化、教育、ジャーナリストの安全確保の分野で相当規模の支援を行っています。ウクライナ情勢は日本にとって重要関心議題の一つですが、各国の反応は一様ではありません。

今回の決議案については、キューバから点呼（ロールコール）による投票に付すべきとの要請がなされ、中国がこれに賛同したため、各国が賛否を明示する形で投票がなされました。その結果、賛成２８カ国（日本を含む西側諸

国)、反対２カ国（キューバ、中国）で決議案は可決されたものの、多くのグローバル・サウスの国々が棄権・欠席に回り（２８カ国)、各国の関心の差が浮き彫りになりました。

ガザ、ウクライナのような国際紛争は、一義的には国連の安全保障理事会など政治、安全保障問題を議論する場で扱うべきとの考えがあります。また、人道問題への対処においても、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR)やユニセフ、世界食糧計画(WFP)に比べユネスコの対応力には限界があるとの指摘もあります。

いずれも一理ありますが、ユネスコは元来、「人の心に平和の砦を築く」ため教育、科学、文化、情報分野での協力を進め、世界の平和と安定に貢献することを任務とする機関です。ユネスコの担当分野に関わる形で国際紛争について議論し、その権限の範囲での活動を奨励することは当然と言えるでしょう。また、人道支援と言っても、「衣食足りて礼節を知る」との考えに基づく食料、医療その他生活物資の支援もあれば、「人はパンのみにて生きるにあらず」との考えにより、尊厳ある生活ができるような教育、文化面での支援もあります。ユネスコが担うのは後者のタイプの支援であり、他の国際機関と相互補完的な形で貢献を行っているといえます。

（執行委員会最終日）

二週間にわたる議論の締めくくりが行われるのが最終日の執行委員会全体会合です。ここでは、前日までの議論について、各委員会の委員長から報告がなされ決議案の採択が正式に決定されます。前日までに実質的な議論は終わっているのですが、最後にどこかの国が何を言い出すか分からないので、議長が「採択」の木槌を打つまでは、やはり気が抜けません。決議案の採択後は、各加盟国から、二週間の白熱した討議を振り返ったり、議長、各委員長や事務局スタッフの努力を労う発言がなされ拍手が相次ぐなど、アットホームな雰囲気となり、最後に議長の「閉会」宣言と各国代表の拍手で締め括られました。

執行委員会最終日には、ポーランドとインドネシアの大使の提案で、各国代表とも民族衣装を着用することが推奨され、多くの各国代表がカラフルな衣装を纏って出席していました。文化に携わるユネスコならではのイベントと言えます。私は残念ながら和服を持っていなかったので、日本のお祭りの法被を羽織って参加しました。

執行委員会最終日の集合写真（左端に筆者）

3.「日本へのクリエイティブな旅展 2024」と新潟県知事及び佐渡市長来訪

今回のユネスコ執行委員会の期間中には、もう一つ重要なイベントがありました。

３月２２日から２８日までの一週間、ユネスコ本部事務局のオープンスペースで、「日本へのクリエイティブな旅展２０２４」を実行委員会（委員長は松浦晃一郎元ユネスコ事務局長）とユネスコ日本政府代表部の共催で開催しました。インバウンド・ツーリズム促進を目的として、日本各地の魅力を世界各国の人たちに知ってもらうため２０１７年から開催している行事です。

５回目となる今回は、新潟県をテーマとすることになり、２５日夕にはパリを訪れた花角英世新潟県知事、渡辺竜五佐渡市長を交えてオープニングセレモニーが開催されました。ちょうど、ユネスコ執行委員会の討議が佳境に入っていて、時間を延長して討議が続けられていたため、休憩時間に会議を抜け出した各国代表団大使はじめ多くの参加者で賑わいました。

会場では、佐渡の伝統芸能である鬼太鼓（おんでこ）が披露されたほか、新潟各地の魅力を伝える写真パネルに加え、新潟のお酒、食もふるまわれ、参加者はしばし新潟へのバーチャルツアーを堪能していました。

「日本へのクリエイティブな旅展 2024」オープニングセレモニーの模様

翌２６日には場所をパリ日本文化会館に移し、日本政府代表部主催により、本年の世界遺産登録を目指す「佐渡島の金山」の魅力を伝えるイベントを、世界遺産委員国関係者を招いて開催しました。

花角知事、渡辺市長から「佐渡島の金山」の文化的価値について直接、丁寧に説明して頂き、活発な質疑応答が行われるなど、参加者の理解を深める上で有意義な機会となりました。

「佐渡島の金山」イベントの模様

最後までお読み頂き、ありがとうございました。

次回のパリだよりをお楽しみに。

ユネスコ日本政府代表部大使

加納雄大

（参考資料）

〇ユネスコ執行委員会関連ウェブサイト

https://www.unesco.org/en/executive-board

〇ユネスコ日本政府代表部ホームページ

・執行委員会における加納大使ステートメント

https://www.unesco.emb-japan.go.jp/files/100640600.pdf

・ユネスコを通じた日本のガザ緊急支援

https://www.unesco.emb-japan.go.jp/itpr_ja/AssistanceGaza_jp.html